



写真① 玄関前の改造後

自生地では 失われる花々の庭

全部を石貼りにせず、軽さと変化を取り入れるべく、一部を洗い出しにしてみました。
今回、記事にすべく、あきる野市のK邸に取材に訪れてみると、思わぬことを知ることとなりました。

もともと施主様の依頼は、玄関前のタイル貼を、石貼りに改造することでした。その主な理由は、経年劣化もあるが、雨など、タイル面が濡れた時、滑り易いこと、その解消が目的とするものでした。完成後が写真①です。



有林庭園設計事務所

〒193-0823 東京都

八王子市横川町 991-6

TEL：042-622-8840

再刊 VOL.13



関東の早春の花
アズマイチゲ



早春の花 セツブンソウ

「この家主は、日本の山野草に造詣深く、主家の前に広がる芝生の奥立派な景石の裏には、今やその山野草の自生地では乱開発や盗掘で絶滅危惧種となってしまった草花があるという。
残念ながら訪れた時が、晩秋から初冬の時だったので、それらの花々を見る事は出来なかったが、もし早春だったら、「節分草」の白い花が一面に咲き、また「一人静か」や「イチゲ」の花が見られるという。
しかもイチゲの花は、わざわざ新潟から取り寄せた、青い希少種だという。また初夏には「レンゲシウマ」や「ヤマユリ」が木の間に観られる。
家主の想い伝わる庭のようだ。

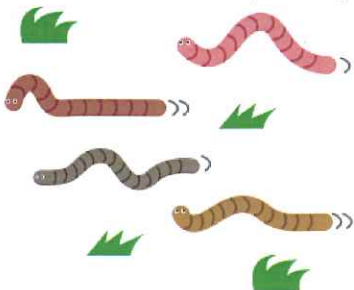


初夏の花 レンゲシウマ

この歌は、百人一首に取り上げられた、孟夫の大河ドラマ、光る君への主人公、紫式部のものです。
でも植物のムラサキシキブは当時そう呼ばれていなかった。
いつこの名が付いたかは不明です。世界でも有名な園芸大国になった江戸中期とするのが有力です。
それまではムラサキシキミと呼ばれていたらしい。
モクレン科のシキミは有毒で、よく墓前に供えられる。クマツヅラ科のムラサキシキブは重美（シゲミ）の意で、実が枝に重（しげ）くつくのシゲミが転訛したもの。

天声樹語

今号を書くにあたって、ご主人の主目的以外の庭造りの想いを伺うことは、何よりであった。
読者の皆様にも、我が家の庭のこんな所が、自慢であるというところが有ましたら是非ご連絡頂きたい。
このみみず通信のそれこそ、みみずの戯言ではあるが、わずかな紙面を通じた想いの遣り取りが生まれれば、望外の喜びで有ります。



ムラサキシキブ

八丈島ではハシノキと呼んでおり、木理（キメ）が密で粘り強いことから箸になるそう。今度のお正月は是非この箸で御節など……。